

砕石を利用したアサリ漁場造成の手引き

水産基盤グループ

研究の背景・目的

わが国のアサリの総漁獲量は、1983年の17万トンにピークに継続的に減少し、2016年には1万トンを下回ったことから、アサリ漁獲量の回復が求められています。各海域のアサリ死亡要因は様々ですが、多くの海域に共通する要因は波・流れによって稚貝が流失して死亡してしまうことです。このような海域の漁場に、波・流れで攪拌されにくい砕石を敷設して底質を安定させることで、稚貝を保護して死亡を減少させる効果が認められました。そこで、本技術の普及を目的に「砕石を利用したアサリ漁場造成の手引き*」（以下、手引き）を作成し、砕石を用いたアサリ漁場整備に関する効果検証、敷設場所の適地選定方法、施工方法に関わる既存技術の整理、及び整備後の維持管理手法等について取り纏めました。

研究成果

手引きでは、主要産地ごとのアサリ資源動向を記述し、これまでに行われてきたアサリ漁場の環境改善手法について取り纏めたうえで、砕石効果の適用範囲を示しました。また、砕石効果として三河湾、伊勢湾及び東京湾での事例を示し（図1、2）、実際に砕石敷設を行う際の適地選定の手順、各種の施工方法の特徴や施工コストを示すとともに、施工後の維持管理手法についても記述しています。

波及効果

持続的なアサリ漁業活動を支えるためには数千トン規模の生産が必要とされており、このためにはアサリの生残・成長を高めるための漁場整備とその効果を維持管理することにより、アサリの生息適地を大規模に拡大することが必要です。それを可能とする技術として砕石敷設は大きな可能性があり、本手引きによる全国への普及が期待できます。



図1 三河湾衣崎地区に敷設された砕石（粒径2.5~5mm程度）

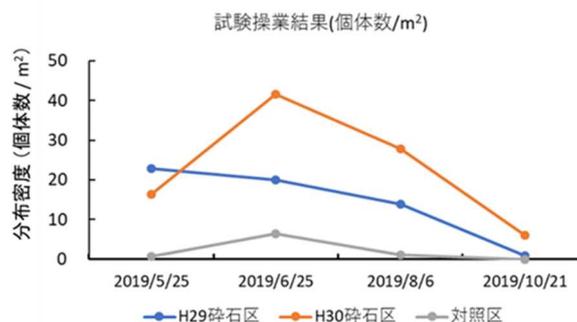


図2 東京湾 船橋地区の試験操業結果（H29とH30では砕石敷設場所が異なる）

(*本手引きは水産基盤整備調査委託事業「アサリ漁業復活のための大規模整備技術・維持管理手法の開発」の一環として水技研と千葉県、愛知県、三重県、(株)東京久栄および(株)海洋エンジニアリングと共同で作成したもので、水産庁HPより公開されています：https://www.jfa.maff.go.jp/j/gyoko_gyozyo/g_gideline/index.html)

(井上誠章、佐藤允昭、多賀悠子)